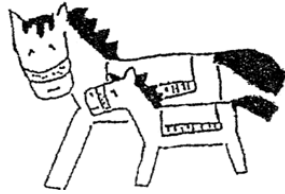


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

27年 4月 NO. 245



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

| ～どなたでも～ |   | 4月の主な活動                  | ～お気軽にどうぞ～   |
|---------|---|--------------------------|---|
| 4月 18日  | 土 | 体験保育<br>10:00～12:00      | 同じ年齢のクラスに入って<br>一緒にあそびましょう。                               |
| 4月 18日  | 土 | おとなのアート<br>14:00～16:00   | 空の広がりを感じ、偶然にできる色の<br>美しさ表現しましょう。<br>材料準備のため、事前申込要。託児も予約要。 |
| 4月 22日  | 水 | 香川みずぐさんの会<br>14:00～16:00 | 万野妙子さんに「人権擁護委員になって感じること」<br>を話していただき、フリートークします。           |
| 4月 24日  | 金 | 健康・育児相談<br>11:00～12:00   | 園医師（小児科）にゆっくり<br>相談できます。（予約要）                             |
| 4月 24日  | 金 | おはなしの会<br>10:00～11:30    | 「春ですよ」をテーマに紙芝居や手あそび<br>パネルシアターもあります。どなたでもどうぞ。             |
| 4月 25日  | 土 | 体験保育<br>10:00～12:00      | 出産予定の方も子育て体験に<br>おいで下さい。                                  |

|  |   |
|--|---|
| <p>・火～金の13時～16時までは、園内開放しています<br/>ので、親子でご来園下さい。<br/>(但し、月・日曜・祭日は休み)</p> | <p>育児相談（月～土）9:00～18:00<br/>しつけや子育てについての悩み、保育園生活<br/>入園・見学についての相談もどうぞ。</p> |
|--|---|

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



ぼわ  
くか  
いも  
から  
芽が  
鬼が  
出た  
藻の  
はじ  
めよ  
で、

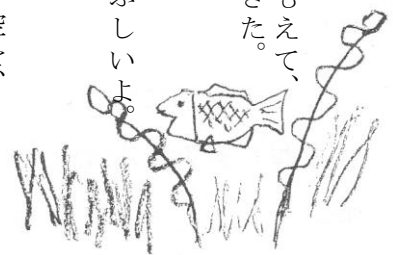
金子みずぐ  
美しい町  
下  
②

き  
ら  
っ  
と  
ひ  
か  
っ  
て  
飛  
ん  
で  
た  
よ。  
おじ

の  
ぞ  
の  
き  
に  
お  
国  
も  
春  
だ  
ら  
な  
、  
行  
っ  
た  
ら  
ま  
ぶ  
し  
い  
よ。

水  
も  
か  
い  
も  
ど  
り  
に  
く  
の  
芽  
が  
も  
え  
て  
、  
な  
っ  
て  
き  
た。

お魚の春



## 全国の夜間保育園の現状（後編）

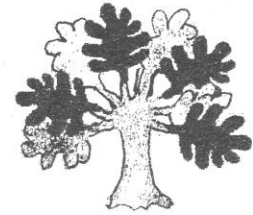
1981（昭和56）年、夜間保育制度が創設され、それから30数年の間に全国でやっと80か所の認可夜間保育園ができました。

当園の夜間保育園（高松第二保育園・はな組）は、平成元年、全国で28番目に認可され、今年で27周年になります。

前月に続いて、夜間保育園について理解を深めていただくため、他園の保護者の声もご紹介します。

### ～ベビーホテルと全国の夜間保育園の現状～

夜間保育園は、30年間で全国にやっと80か所設置という低い普及率ですが、ベビーホテルは、平成24年には、30年間で約4倍の1,300か所、その利用児童は約4,300人以上といわれています。ベビーホテルが30か所以上ある静岡県、千葉県、政令指定都市の仙台市、神戸市などにおいては夜間保育所が未設置です。



### ～夜間保育園 保護者からの声～

もんもん保育園（神奈川県平塚市の夜間保育園）のようす

神奈川県平塚市にあるもんもん保育園は、15年間の無認可保育施設を経て神奈川県の夜間保育園のモデル事業として1992（平成4）年4月に開設されました。県の担当者から「目の前に困っている子供たちがいるのだから、その子供たちの居場所をつくってあげて欲しい」と背中を押されてのことでした。

平塚は東京までJR東海道線で約1時間の通勤圏内にあるので、自己実現に向けて社会参加している女性が多く、結婚して子どもを産み育てながら仕事を続けています。その家族を支援していくためにも夜間保育園は大きな役割を担っていると考えています。その一方で時代の変化と共に保護者の働き方も多様化してきました。

ひとり親家庭の母親から「私、今の仕事を辞めて自分の好きな仕事をしたいので、働きながら勉強して資格試験に合格したら東京の銀座で仕事をしたい。だから土曜日も含めて夜10時ギリギリのお迎えになります」と言っていたHちゃんとOちゃんのお母さんは見事に試験に合格し、希望どおり銀座で仕事をすることができるようになりました。収入も増え親子3人での生活に多少のゆとりができるようになったと喜んでいました。HちゃんとOちゃん

も夜遅くお迎えに来る母親を待ちながら、遅番の保育士にたっぷりと甘えて遊び、安心して眠っていました。そんなある日、「先生、今まだ東京なの。事故があったようで電車が動かないから、動き出したらまた電話します」と連絡が入りました。お迎えが特に遅くなる時でも、子どもが安心できるようにしてお迎えを待ちます。これも就労支援であり夜間保育園ならではの社会的役割だと感じています。

このHちゃんが小学校へ入学した春のことです。母親から「Hの担任から『夜間保育園なんかに入れていたからHちゃんが落ち着かないようになったんでしょ。それにお母さんの仕事も東京なんかに行かないで、地元で仕事をしなさいよ。探せばいくらだってあるでしょ。そしたら夜まで児童クラブ（同法人経営の学童保育）にHちゃんを預けなくてもいいのだから』って言われちゃいました。夜間保育園って悪い所なんですかね。今まで沢山助けてもらってきたし、今だっても子どもが『お腹すいた』ってここで言ったとしたら、先生がいなかったらビンタしちゃいますよ。私だって頑張ってる仕事して疲れて帰って来たのだから。小学校って保育園と違って私たちの生活のこと考えてくれないんですね。いきなり仕事を変えろって言われてもね。さすがにこの私も言い返せなかったわ」と早口で吐き出すように言って帰って行きました。Hちゃんが落ち着かないのは小学校と児童クラブの新しい環境に戸惑っていたのでしょう。同時に母親の私生活も大きく変わり、いろいろなことが重なってHちゃんは不安定になっているのだと思いました。

夜遅くまで児童クラブを利用する子どもたちは、学校の宿題はクラブにいる間に終わらせているのですが、Hちゃんは宿題どころか教科書すら学校に置いたまま帰ってくるので、仕事で帰りの遅い母親に代わり指導員から担任に連絡を入れたのですが、「宿題は本人の意志でやるものです。児童クラブではやらせなくてもよいです」との返事がありました。もちろん小学校の担任との関係がこのままでよいとは思っていませんので、校長先生、教頭先生と学年主任の先生方と話し合いをすることになっています。話し合えばきっと分かってもらえると思っています。

今の多様化している社会にあっても、いまだなお、夜間保育園が悪ととらえられている現実を目の前に突きつけられて、なんともやるせない気持ちで一杯です。それでもなお、子どもたちを温かく見守り応援してくださる地域の方々と共に、自分の価値観を信じてこれからも夜間保育園、夜間までの児童クラブを必要とする人たちを支援していきたいと思っております。

（もんもん保育園園長）



## ～夜間保育は、子どもの成長・発達に影響があるか？～

**全国夜間保育園連盟**（注1）は、この10数年にわたり、安梅教授グループ（筑波大学医学医療系教授）を中心に経験的・科学的根拠に基づく追跡共同調査研究をしております。その結果、質の高い保育を利用すれば子どもはすこやかに成長します。質が保障されていれば時間の長さや時間帯は関係せず、むしろ家庭環境が影響するとのことで、この成果は諸外国から大きな賞賛を受けることになりました。「日本の認可保育の質はすばらしい！深夜に及ぶ高い質の確保には学ぶところが多い」とユネスコの報告書に載りました。

**注1** 全国の認可夜間保育園63か所が加入して、全国夜間保育園連盟という組織を作り、昨年で30年になりました。互いに連絡を取り合い、研修や園長会を重ねて質の向上に励んでいます。

夜間保育を必要とする環境にある子どもたちを夜間保育によって少しでも望ましい状態に変えることが児童福祉の精神であります。認可夜間保育園は子どもや保護者にとっても“砂漠のオアシス”として存在するのです。



## ～四半世紀前の出来事～

山懸 文治（関西大学人間健康学部教授）

「ごめん、遅くなって。帰ろうか」「だめ。もうちょっと、お話を聞いてから」夜8時過ぎ、保育所に子どもを迎えに行った。娘は保育士の読んでいる絵本に夢中のように、帰りたがらない。少しの時間であるし、その場の雰囲気壊しても申し訳ないので、部屋の隅で様子をみていた。

保育士が絵本を読んでいる光景は、保育所ではきわめて日常的である。しかし、何か様子が違う。ぼんやり考えていると、2つのことに気づいた。

第一は、保育士の周りを取り巻く子どもの数が5～6人にすぎないということである。「この時間帯まで利用する家庭は確かに多くないよね」。答えは、その一言である。当時、夜間保育所のほとんどが、定員30人程度であり、その中で8時を過ぎても、集団の絵本活動になじむ子は、そんなに多くなかった。

第二は、保育士が、親が読むように自分のほうに向けて本を開き、子どもは保育士の肩越しにみたり、膝に座ってみたりしていたことである。私が日常的にみていた行動は、まさに「絵本の読み聞かせ」であり、今、目の前に展開しているのは「絵本を一緒に読んでいる」姿であった。これが、小集団のよさであり、日常的に夜間保育の場面で起こっているできごとなのだと感じた次第である。

「夜間保育と子どもたち～30年のあゆみ」（北大路書房）より